

# 藻類を環境指標に用いた自然史科学の研究と、自然史を基盤とした環境教育プログラムの開発

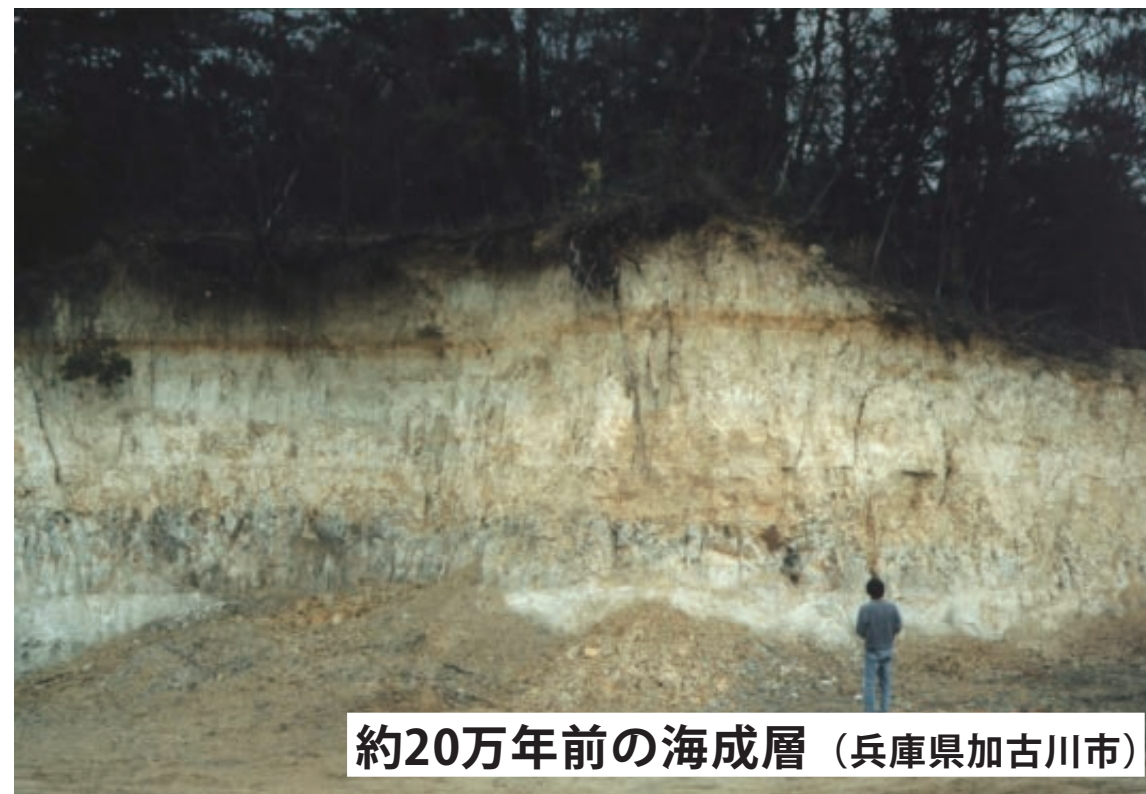


自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

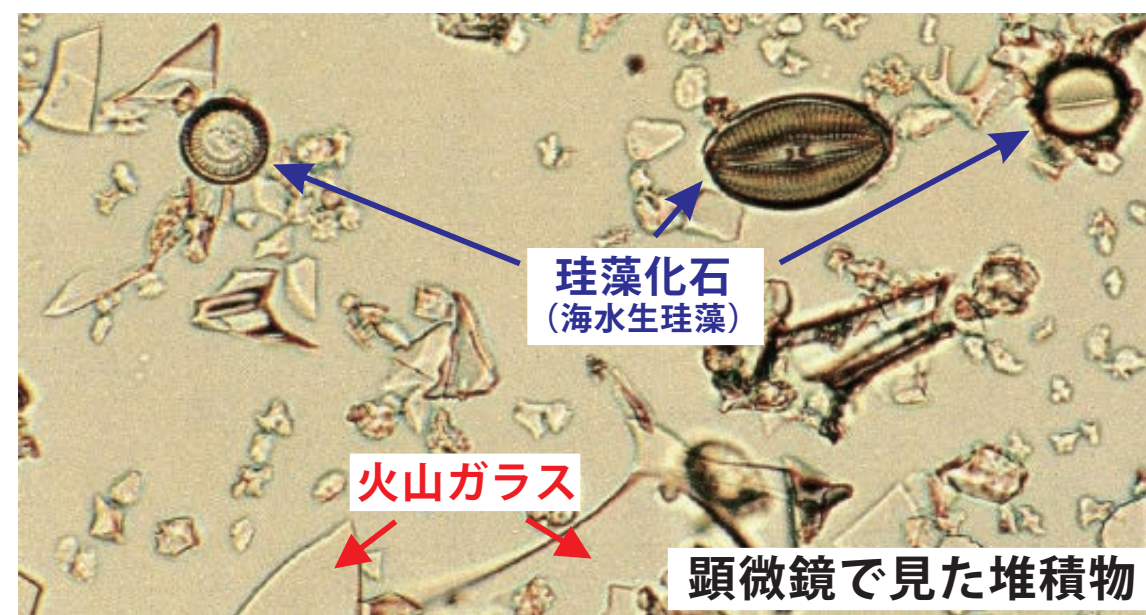
佐藤 裕司

‘過去に学び、現在を知り、未来へ生かす’という自然史科学の視点と地球的視座に立ち、地域環境の歴史性と多様性の理解を深める研究を行っています。その研究のための環境指標として、珪藻や淡水産紅藻などの藻類を用いています。また、自然の恩恵と災害の二面性への理解を環境教育の中に位置づけ、自然史リテラシーを育成するための手法開発にも取り組んでいます。このような自然史からの環境学へのアプローチは、現在を正しく位置づけ、未来を予測し、直面する環境問題に対処する道標になると考えています。

## 珪藻化石を用いた古環境解析



約20万年前の海成層 (兵庫県加古川市)



珪藻化石  
(海水生珪藻)

火山ガラス

顕微鏡で見た堆積物

## 淡水産藻類の多様性と保全に関する研究



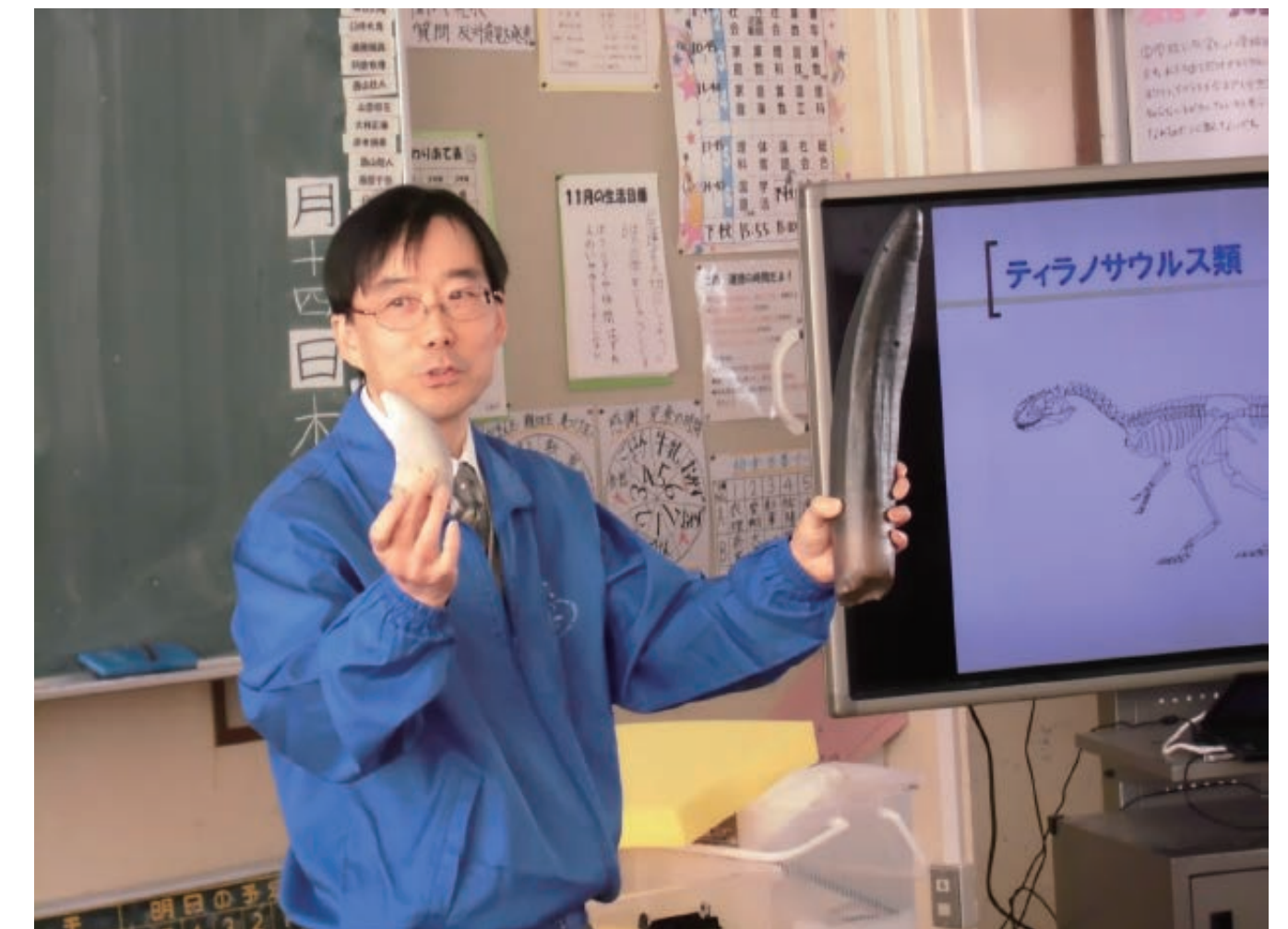
安室川 (兵庫県上郡町)



淡水産紅藻チスジノリ



## 自然史リテラシーの涵養のための環境教育プログラム開発



岸本清明・神田英昭・佐藤裕司, 2014, 「小学校6年生理科 [大地のつくり] における恐竜化石の活用と地質フィールドワークの効果 - 大地の営みがもたらす恩恵と災いを伝える試み -」, 『人と自然』, 25, 111-123.